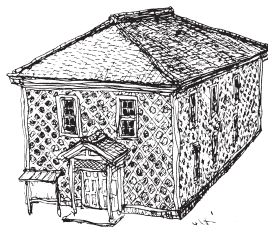


演説館



福澤先生とその門下生たちは、西洋のスピーチ、ディベートを研究し、わが国の「演説」を創始しました。三田演説館は、明治8年に開館した日本最初の演説会堂です。

KBS創立50年に想う

KBS（慶應義塾大学ビジネス・スクール）は、経営幹部人材育成を目的として1962年に設立され、今年で創立50年の節目を迎えます。短期セミナー、1年制プログラムに続き、1978年には我が国初のMBA課程（大学院経営管理研究科修士課程）、1991年に博士課程を開設、今日まで2600名を超えるMBA卒業生と16000名を超えるセミナー受講生を輩出してきました。いち早く国際化にも取り組み、世界のトップスクールとの単位交換プログラムやダブルディグリー・プログラムを提供しています。KBSの学生や教職員の水準の高さは、日本で唯一、AACSBとEQUISという二つの国際認証を取得・継続していることでも示されています。

KBSでは、経営を担うリーダーを育成するために、ケースメソッドと呼ばれる教育方法を採用しています。学生・受講生は、企業での実例を記述したケース教材を事前に読み込み、講師のリードの下、意思決定プロセスをクラスで議論し、分析力、判断力、コミュニケーション力を磨きます。ケースに基づく討論は、分野別に一方向で知識を詰め込むのではなく、横断的に

双方向で知識を体得する場です。さまざまなバックグラウンドの人たちと討議する授業は、座学とは異なる活気とエネルギーにあふれています。

近年、グローバル人材という言葉が注目を集めています。しかし、異文化の人たちと正面から議論し、自らの考えを堂々と伝えるためには、語学の力に加え、経営の各分野にまたがる広い知識と、それを適切に使い分ける能力が不可欠です。同時に、自分の専門分野を深く学ぶことが、大きな武器になります。さらにその根底に、人間力、リーダーとしての力、経営に対する情熱や使命感が求められます。KBSは、そうした能力を身に付けてもらう場を提供しています。

日本の経済社会が厳しい競争に直面するなか、既存のパラダイムから脱して新たな構想で事業を生み出すリーダーを育てることは、日本の将来を支える一つの基盤です。50年という節目に、広く日本の経済社会を先導していく気概をもって、新たなスタートを切りたいと考えています。義塾関係者が一人でも多くKBSのプログラムに参加してくれることを期待しています。

● 経営管理研究科 委員長

こうのひろかず
河野宏和